

# Tsuchitter

～つちうらを フォロってファボって リツイート～

1 班 井下純貴／石村匠／瀬島由実加／富田真紀／山根優生 TA 岩片麻実

## 1.土浦市の概要

土浦市は茨城県南部に位置する都市であり、東京から約 60 km、成田国際空港から約 40 kmに位置している。平成 18 年 2 月、新治村と合併を行い面積 122.99 ㎢となった。水と緑に恵まれた都市であり、筑波山麓・桜川・日本第 2 位の面積を誇る霞ヶ浦を有している。霞ヶ浦周辺には蓮田が広がり、レンコンの生産量は日本一を誇る。

## 2.コンセプト

Twitter とは 140 文字以内の短文をネット上に投稿できる情報サービスである。Twitter では、フォロー (=友達になってつながる)、ファボ (=お気に入り登録する)、リツイート (=まわりの人に情報を広める) などの用語が使われる。私たちはこの Twitter の 3 つの概念を参考に、「Tsuchitter ～つちうらをフォロってファボってリツイート～」というコンセプトのもと、土浦の将来に向けたまちづくりの提案を行う。この提案において Twitter の 3 つの用語を以下のようにおきかえて定義した。

- ・フォロー：土浦を知る・つながる
- ・ファボ：土浦を好きになる
- ・リツイート：土浦の良さをまわりに伝える

これら 3 つが図 1 の示すように循環し、これを繰り返すことで「住み続けたいくなるまち」になること、また市外の人に「住みたいまち」と思われるようなまちになることを最終目標とする。



図 1 コンセプト

## 3.提案内容

### 【3-1.教育～愛つちうら育育計画～】

#### 3-1-1.現状

土浦市は筑波研究学園都市に隣接しており、市内には多くの高校が立地している。筑波大学と地元の高校とが連携し地域活性化シンポジウムを行ったこともあり、より質の高い教育を行うのに十分な環境が整っている。また、土浦市は霞ヶ浦や筑波山麓といった自然や、歴史あるまちの文化的な素養が豊富であり、教育の素材にも恵まれている。

#### 3-1-2.愛つちうら育育計画

土浦市の小・中・高校を対象に教育プログラムを通して土浦のまちについて学ばせる。学校教育のなかで土浦のまちを知ること、土浦のまちについて考えさせる機会をつくる。

小学校では体験型学習、中学校では発信型学習、高校では提案型学習を行い、成長とともに高いレベルの学習プログラムに取り組む。体験型学習では、土浦まち歩き探検やレンコン収穫体験などを行い土浦のまちを体で学ぶ。発信型学習では、広報つちうら

と連携したプログラムを組む。その詳細は広報で後述する (3-5-2 参照)。高校生には、周辺の大学の学生にサポートをしてもらいながら自ら問題発見をし、それに対する提案を行わせる。高校生の中にまちづくり提案のノウハウを学ぶことができる。

また、小・中学校の最高学年では下級生をサポートしてもらう。これにより下級生は学習の質や効率の向上につながり、上級生は下級生への指導を経験でき、多面的な教育が可能となる。これらの体系を示したものが表 1 である。

表 1 教育プログラムの体系

小学1～5年生	体験型学習
小学6年生	下級生サポート
中学1～2年生	発信型学習
中学3年生	下級生サポート
高校生	提案型学習

### 【3-2.観光～ちゃりんこつちうら！～】

#### 3-2-1.現状

土浦市北西部に位置する新治地区は田園と果樹園の多く立地する農業の盛んな地域である。一方後継者不足が叫ばれ、農業従事者数は 2000 年からの 5 年間で 1,901 人から 18.5%の減少を見せている。そのため耕作放棄地の拡大も問題となっている。自然面では水郷筑波国定公園に指定される筑波山麓と桜川を有し、大規模自転車道であるりんりんロードと霞ヶ浦自転車道、朝日峠のスカイスポーツなどにその空間は活用されている。また図 2 に示す通り 2016 年までに茨城県は霞ヶ浦を一周する自転車道を整備しりんりんロードと一体となった「水郷筑波サイクリングコース」を計画しており、土浦市は将来的に自転車政策の要衝となる。



図 2 水郷筑波サイクリングコース完成予定地図

#### 3-2-2.ちゃりんこつちうら

第一に市周辺の自転車環境整備について目を向ける。りんりんロードと霞ヶ浦自転車道との接続道を整備するほか、土浦駅前の新図書館付近(後述)にサイクルステーションを設置する。これは現在モール 505 に設置されている「まちなか交流ステーションほ

っと one」の提供するコインロッカー、トイレ、空気入れ、レンタサイクル等を拡充し、スポーツバイクやサイクリングウェアのレンタル、シャワーや駐輪場の整備等を行うことで自転車利用者の利便向上と利用者増を狙う。これらは東京都の皇居周辺に位置する民間のランステーションをモデルとし、運営は現在の「ほっと one」と同様に土浦商工会議所に委託する。

第二に、新治地区を縦断する「新治小町ポタリングコース」を選定する。ポタリングとは自転車による散歩のことである。小町の里周辺の文化資源と自然資源を融合させ、人々に自転車でも走ってもらうことで従来は気づかなかった新しい魅力を発掘し、好きになってもらい、かつ新治の魅力を広めてゆくことを目指す。ルートは既存道の歩道設置区間や交通量の少ない農道に設定し事故や渋滞を回避する。りんりんロード旧常陸藤沢駅を起点とし、JAさんふれ新治・温泉のある総合福祉センター等を経て、小町の館を基幹とした小町の里周辺文化エリアを回る。これを示したものが図 3 である。将来的には新治にとどまらず市内各所にポタリングコースを設定し土浦の資源を活かしたキャラクターを持たせるほか、他市町村とも連携し水郷筑波サイクリングコース一帯でもポタリングコースの設定を進め、「自転車王国」として茨城県南地域の魅力アップを狙う。また新たなサイクリングの提案として現在季節限定で運航している土浦-潮来間のフェリーに自転車を載せ霞ヶ浦を遊覧、その後自転車により霞ヶ浦を半周し土浦へ戻るコースを提供することで観光とサイクリングの両者を楽しめるプランも新設する。



図 3 新ポタリングコース地図

### 【3-3.子育て～常磐線すくすくエリア計画～】

#### 3-3-1.現状

2015 年春に常磐線が東京駅まで延伸することが決まっており、常磐線沿線はベッドタウンとしてより人気のエリアとなることが予想される。

#### 3-3-2.子育てサロン@sさんばる

ベッドタウンとしての人気を増すために、子育てをキーワードとして、以下 2 つの事業を提案する。

##### 提案 1: 「子育てサロン@sさんばる」の設置

土浦市には現在 2 ヶ所の子育て交流サロンが設置されているが、より常磐線の駅に近いところに土浦市の子育て施設の拠点となる施設をつくりたいと考えた。そこで土浦市の玄関口でもある荒川沖駅に直結する商業施設「さんばる」の 2 階の空き店舗 (195 ㎡: 図 4) に子育てサロンをつくり、このエリアを「子育て・教育のまち」として PR する拠点とする。具体的には①すくすくコミュニケーションルーム (託児所に準ずる施設。簡易なシアターを設け、多目的に利用できるスペースとする)と②子育てほっとカフェ(親同士の交流を目的としたカフェ。①の利用者はカフェでの飲食が

割引になる)を設置する。ここでの交流を通じて出産や子育てに関する情報共有や相談を気軽にできることを目指す。またさんばるの専門店街で子どもやその親をターゲットとしたイベントやキャンペーン、店舗展開を行う。子育て施設の設置と合わせてさんばる全体で子どもとその親をターゲットとしたマーケット戦略を立て、子育て施設と商業施設の相乗効果を狙う。

事業主体: 土浦市 (運営は子育て支援団体 (候補: NPO 法人いろはなど) に委託)



図 4 すくすくサロン@sさんばる 設置予定図(さんばる2階空き店舗)

### 提案 2: 放課後子ども教室の設置

放課後こども教室とは、文部科学省が平成 19 年度より取り組んでいる事業。現在土浦市内には 7 箇所あり(図 5)、小学校の余裕教室等を活用して、地域住民の参画を得て、子どもたちとともに



図 5 放課後子ども教室実施場所

行う学習やスポーツ・文化活動等の取組を支援するというもの。この放課後子ども教室を神立・荒川沖両駅周辺の小学校にも設置する。地元住民のボランティアを募り、勉強を始めさまざまなことを子どもたちに教える場、地域住民と交流する場とする。土浦市放課後子ども教室推進事業実施要綱に則り、実施日は週 2 回、実施日の放課後～午後 5 時までを実施時間とする。

### 【3-4.にぎわい～土浦まんなか復活大作戦】

#### 3-4-1.現状

「イオンモール土浦」をはじめ、つくば市の「iias つくば」、阿見町の「阿見アウトレット」など郊外型ショッピングセンターが増加していることによって、土浦市の中心市街地の商業は年々衰退している。中心市街地の商店街では店主の高齢化により、シャッターを閉める店舗や空き店舗が増加し、モール 505 についても空き店舗が増加し魅力的とは言えない状況である。また平成 27 年には市庁舎がウララに移転することが決定しており、中心市街地の大型店舗の一つが失われ、さらに中心市街地の商業の衰退が加速することが考えられる。

#### 3-2-5-2.にぎわいエリア計画

中心市街地は図 6 のように整備することとする。また費用は表 2 に示す通りである。

##### 提案 1: まちなか交流ステーションほっと One+を開設

現在、モール 505 内にあるまちなか交流ステーションほっと One をペDESTリアンデッキに面した市役所玄関口に新たな機能を持たせた「まちなか交流ステーションほっと One+(約 250 ㎡)」として開設する。

- 〈施設内容〉
- ・観光案内
- ・ギャラリー (地域模型などを展示、多目的なスペースとする)
- ・オフィス (常駐スタッフ)
- ・カフェ
- ・オープンテラス

・ガーデン

運営は土浦商工会議所、土浦市、筑波大学の3つの団体共同で行う。土浦商工会議所が代表を務める現在のまちなか交流スペースほっとOneのスタッフを常駐スタッフとし、土浦市は商工会議所への資金補助を行う。筑波大学は活動内容を3つの団体が共同で企画する定期的なワークショップや講師陣に大学教授等を迎えて行うまちづくりスクールを開催に開く。これらの活動によって積極的に市民がまちづくりについて考える機会を設ける。さらにまちづくりスクールを筑波大学の授業と連携させることで学生が参加し、活発な活動となる事を狙う。  
 ワークショップ例) 駅前ガーデンワークショップ  
 駅前ガーデンを利用して花やハーブ、フルーツなどを土の入れ替えなどを含めて体験、勉強できるワークショップ。  
 その他) 観光の視点からのまちづくりワークショップなど



図6 中心市街地全体計画図

表2 計画とその整備費用

計画	整備費用
ほっとOne+	約700万円
新図書館	約18億円
商業施設	約8.9億円
公園	約3000万円
(防災設備費用 約1500万円を含む)	

提案2：ながら交流スペースを持つ商業施設の計画

現在の図書館建設予定地に新たに6階建て(1,2階は駐車場)の商業施設を計画する。土浦駅からの動線を確保するためペデストリアンデッキをこの施設の3階につなぐ。またこの施設には様々な広さの「ながら交流スペース」を各店舗階にランダムに配置する。

・ながら交流スペース

このスペースは市民のコミュニティ活動・地元アーティストの講演・キッチンスタジオなど様々な目的に活用できるものである。買い物を目的に来た人にコミュニティ活動を知り、参加するきっかけを創り出す。さらに普段このような商業施設で買い物をしない人が活動を目的に足を運ぶようになり、買い物をするきっかけを創り出すといった相乗効果を狙う。このスペースを施設に入れ込む事で、老若男女にわたり交流する機会を設けることができる。

提案3：新図書館の計画

モール505がある敷地は土浦駅から奥まっっており、高架によって薄暗い。ここに一定の利用者が確保できる図書館を高架下を埋めるように敷地いっぱい計画し、高架下という空間をなくしてしまう。この新図書館は現行計画図書館における図書スペース約6000㎡と同規模を確保する。大きな吹き抜けを持った2階建ての施設とし、勉強・会議等に利用できるスペースなどを確保する。

提案4：公園の計画

現在モール505の東側にある駐車場にオープンスペースとして公園を計画。緊急災害時に対応できるように災害時にかまど・ト

イレになるベンチなどを設ける。また公園にはカフェや小規模なショップを展開する。さらに、3・2・2で述べたサイクルステーションを独立させて配置する。

【3-5. 広報～ビビッと魅力発信！～】

3-5-1. 現状

現在、市は情報発信に広報誌、ホームページ、Twitterなどの手段を使っている。その利用者について、若年層においてはTwitterの普及率が比較的高いが、高齢になるに従いインターネットを介した情報取得には抵抗を感じるようになるかと一般に考えられている。また平成23年土浦市満足度調査によると広報つちうらの購読率は75歳以上で84.9%を誇るのに対し、20-24歳では20.5%と非常に低い現状が分かる。また市の広報についての設問への回答に関し「現状満足」に次いで「PR不足」が挙げられるなど市民に問題意識があることがわかる。

3-5-2. 提案

提案1：広報つちうらの活用

3-1で述べた愛つちうら教育計画での発信型学習で学級新聞を作成し広報つちうらの特集ページとして提供したり、あるいは編集に携わらせたりする。これにより、若者の広報つちうらの購読率アップと内容の充実によるより良い広報誌を目指す。

提案2：Twitterの活用

現在土浦市には公式アカウントが存在する。私たちはTwitterの情報の相互性に注目し、以下の2つを提案する。

- ・市民と行政の意見のやりとりの場に  
 現在の市公式アカウントは土浦市の情報を機械的かつ一方的に提供するものである。このアカウントに人格(キャラクター)を持たせることで親近感を抱かせる。また、Twitterのリプライ(コメント送信機能)を用いて生活情報やイベント、簡単な市政への質問などに解答するものとし、市民と行政が意見をやりとりできる場とする。
- ・土浦の魅力を伝える場に  
 Twitter上で募集した土浦の写真や土浦写真コンテストの応募作品などを1日数枚ずつ市の公式アカウントで公開する。土浦市の魅力アピールになるだけでなく、写真を提供することで市民が情報発信者となり、市民目線での魅力発信ができる。

【3-6. 全体像】

以上の提案による全体像を示したものが図7である。

4. 参考文献

[1]土浦市耕作放棄地対策協議会。“土浦市耕作放棄地解消計画”  
[http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1269591701\\_doc\\_27.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1269591701_doc_27.pdf)  
 [2]Cyclist\_sunspo。“2016年度日本一のサイクリングロード整備へ:茨城”  
<http://cyclist.sanspo.com/79576>. 2013/06/27.  
 [3]国土地理院。“2.5万分の1地形図”(筑波,上郷,常陸藤沢,土浦,常陸高浜).  
 [4]土浦市。“土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業基本設計概要”  
[http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1219363509\\_doc\\_37.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1219363509_doc_37.pdf).  
 [5]土浦協同病院。“新病院について”  
<http://www.tkggh.jp/website/introduction/04sinbyouin/01.html>.  
 [6]土浦協同病院付属看護専門学校。“公式ホームページ”  
<http://www.tkkangaku.net/>.  
 [7]NPO法人いろは。“公式ホームページ”  
<http://d.hatena.ne.jp/iroha8258168/>.  
 [8]神立手帖。“神立手帖ウェブ版”. <http://kandatsu.org/post/1246>.  
 [9]さんばる。“フロアガイド”  
<http://www.ibarakiken.or.jp/scsunpal/guide/2f.html>.  
 [10]土浦市。“統計つちうら”  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir001548.html>.  
 [11]土浦市。“平成23年度土浦市民満足度調査報告書”. 2012/01.  
[https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1352963378\\_doc\\_3.pdf](https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1352963378_doc_3.pdf).  
 [12](社)土浦市観光協会。“第8回土浦の写真コンテスト”. 2013/07.  
<http://www.infonavi.co.jp/~kanko/cgi/news/data/doc/1372924233.pdf>.  
 [13]総務省。“わがまちCMコンテスト2013”. 2013/06/18.  
[http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/01sotsu03\\_01000287.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/01sotsu03_01000287.html).  
 [1],[2],[4]-[13]:2014年1月24日最終アクセス



図7 土浦市地域別構想